

主な施設分類別の検討事項まとめ（小・中学校）

各地域（ブロック）ごとに出た参加者の意見を基に、主な施設の分類別に各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

①小さい学校を残す：北部、西北部、中北部、中部、南部、東部

- ・今まで学校を中心とした地域発展（人口増加）してきた経緯から、学校が無くなった場合にさらなる地域の人口減少を懸念している。
- ・学校は、郷土愛を育むために必要で、地域で見守る協力も必要である。
- ・地域住民のふるさとである学校は残すべきである。
- ・子どもたちのために、お金がかかっても、1学区1小学校制を守る。
- ・小学校は距離が大事で、家の近くがいい。
- ・学校を避難場所として、維持する必要がある。
- ・体育館を避難所として使用するため、学校全体ではなく体育館のような大きな建物を残す。

②現状維持：北部、南部

- ・小学校は子どもと地域の人が交流する場所であるため、地域コミュニティの核として現状維持とする。
- ・主な交流の機会には、小学校で行う地域運動会がある。

③学区の見直し：北部、西北部、中部、南部

- ・生徒数の地域バランスに配慮した学区の見直す必要性もある。
- ・地域内での小中学校の統合はできるが、生徒数が多い場合はやりやすく、生徒数が少ないとやりにくい。
- ・統合する際には、遠方からの通学に対して、スクールバスなどの配慮が必要である。
- ・通学時の安全性を確保することが重要である。
- ・統合した場合、児童クラブと学校が遠くなることも考えられ、安全性が問題となる。
- ・児童クラブと小学校は近いほうが、安全面でも望ましい。

④学校の選択性、学校・教育の多様性：西北部、中部

- ・どの学校を選択するか、学校や教育のあり方については、多様性が必要である。
- ・多様性の中に地域の背景や歴史を考慮しつつ、地域の特徴や文化を活かして、魅力のある学校教育をつくるような配慮が必要である。
- ・学校が使いやすければ便利であり、保護者と地域で学校をつくることも考えられる。
- ・教育環境を向上させるため、複数学級とする統廃合もある。
- ・単学級の良さを大事にして、クラス替えがない部分は、学校間の交流で補うこともできる。

⑤教育ゾーンとしてまとめる、小・中・幼を複合化：中南部、中北部

- ・教育環境の充実を図るため、教育ゾーンとしてまとめることは考えられる。

⑥地域拠点の複合化：西北部、中北部、中部

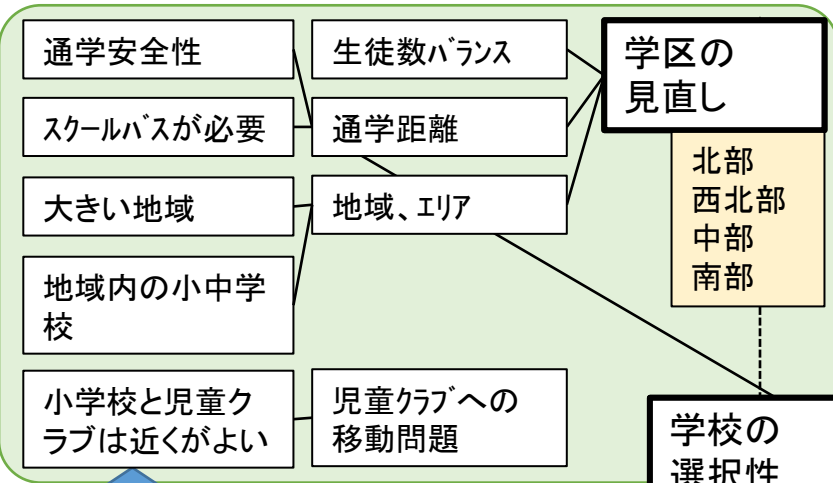
- ・小学校の空き教室を活用し、公民館を複合化する。
- ・公民館は予約でいっぱいなので、学校の空き教室を開放して欲しい。（土日だけでなく平日も）

- 空き教室には優先的に、市民センターや幼稚園、子どもとお年寄りが一緒に生活できるような施設を受け入れた複合化が考えられる。
- 統合する場合には、学校を優先的に考え大きな施設を作り、空きが出たときに他の用途受け入れられるように変化に対応できる施設として整備することが必要である。
- 学校の複合化については、車の出入や不特定多数が出入し不審者などセキュリティが心配である。
- 防災上、市民センターと小学校が離れていると不便である。
- 教育施設の複合化（小+中+幼）であれば、セキュリティの管理が可能である。

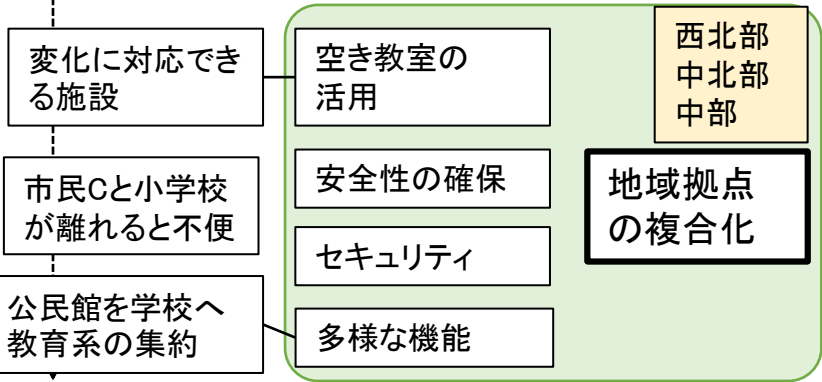
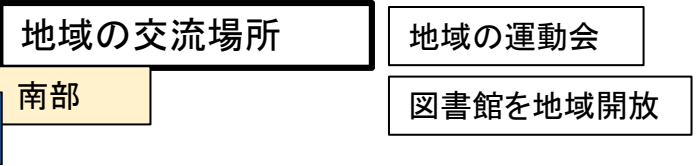
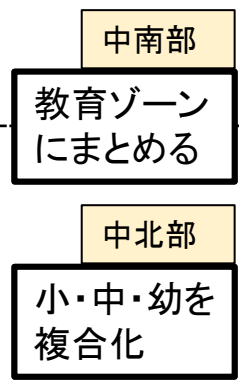
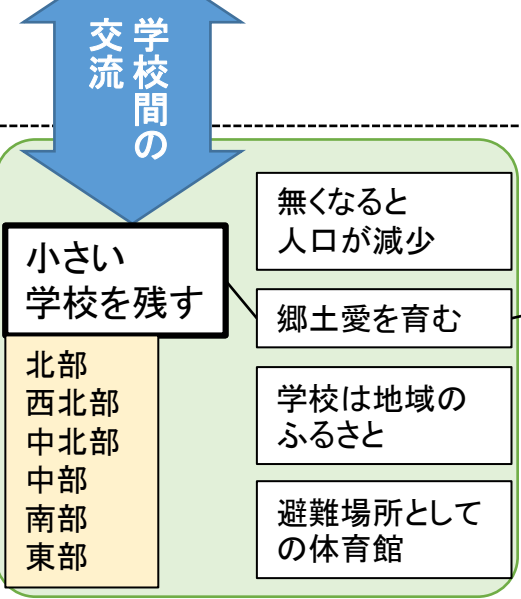
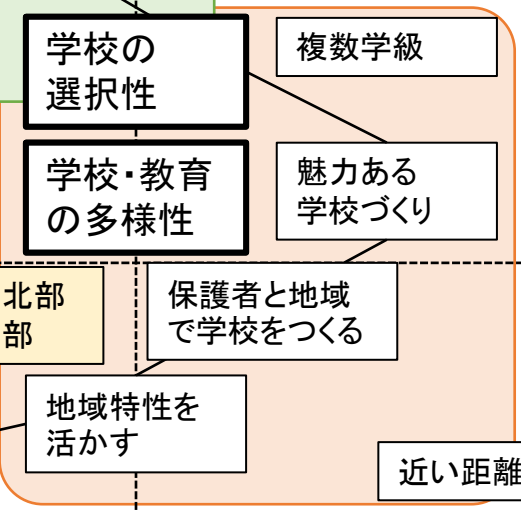
《主な施設分類毎の意見等の傾向分析シート》 小学校・中学校

縮小または廃止

統廃合



※ 本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。



現状維持

複合化

主な施設分類別の検討事項まとめ（市民センター）

各地域（ブロック）ごとに出た参加者の意見を基に、主な施設の分類別に各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

①現状維持：中南部、中部、西北部

- ・高齢者が多く移動できないため、コミュニティ施設は分散型で使いやすくする。
- ・集約されると、地域活動ができなくなる。
- ・市民センターは、広さや機能面で防災拠点として安心できる公共施設である。
- ・避難場所が必要なため、現状維持が必要である。

②目的別の配置：中北部、中南部

- ・エリア別に集まる場所を揃える。
- ・そして、利用者や利用目的別に配置を変えることも重要である。
- ・歩いて集まる小さな場所や、みんなで集まる大きな場所を配置する。
- ・歩いて集まる小さな場所は、お年寄りや子育て中の人がバギー等を押して、容易に集まると便利である。
- ・みんなで集まる大きな場所は、坂道が多いことや夜間利用が多いため、車を利用する。よって、駐車場を完備する必要がある。
- ・現在は駐車場がないため、近くの小学校に車を停めたりしている。
- ・現状の問題は、飲食ができないことである。
- ・公民館の管理を市ではなく、地域に任せれば、飲食も可能となる。

③地域拠点の複合化：東部、中部、西北部、北部

- ・公共施設は地域の特色を活かす配慮が必要である。
- ・減らす話ばかりではなく、地域を発展させる努力も必要である。
- ・市民センターを地域拠点として、市民利用サービスを複合化（集約）すると利便性が向上する。
- ・例として、母親が市民センター内に子どもを預け（児童福祉サービス）、講座（社会教育サービス）や集会（市民交流サービス）等の交流機会を増やす。この複数のサービスを市民センター内だけで完結できる。※現在の木戸市民センターでは実際に行っている。
- ・自動車の利用が主な交通手段であるため、市民が集まる公共施設には、駐車場が必要である。
- ・また、運転できない人の交通手段も確保することも重要である。
- ・共稼ぎで通勤に駅を利用する人も多いため、駅周辺に集約すると便利である。
- ・防災上、市民センターと小学校が離れていると不便である。
- ・複合化をする場合には、セキュリティを確保するため、出入口を別にする必要がある。
- ・学校に不特定の間人が出入するため、安全性の確保が問題となり、その責任の所在も課題である。
- ・土日の利用が多く、飲食ができないことから、ソフト面を改善して、利用者が増えれば、減らすことはない。例えば、カフェをつくる。
- ・平日は市が管理できるが、土日は誰が管理するか課題であるが、儲けられる施設となれば解決できる。また、ルール作りや支援制度も必要である。

- ・公民館の管理を市ではなく、地域に任せれば、飲食も可能となる。

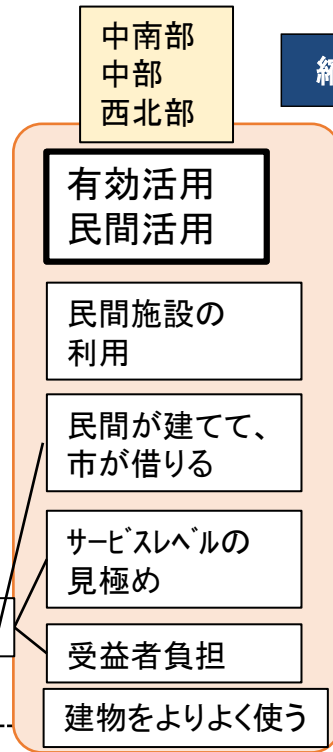
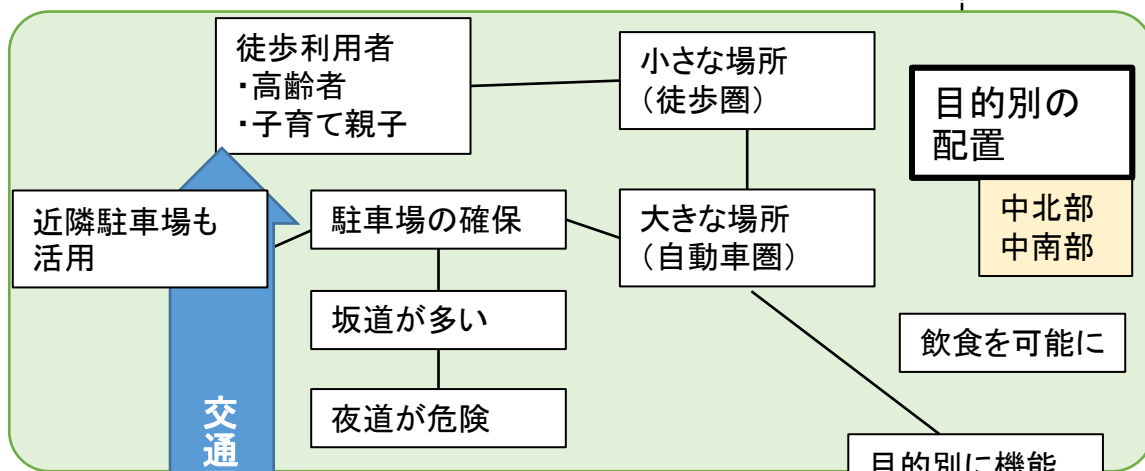
④有効利用、民間活用：中南部、中部、西北部

- ・建物をよりよく使うためには、民間活用もある。
- ・民間が建てて、1階を支所、上は民間が使用して収益を出す考えも必要である。土地も民間へ貸す。
- ・サービスレベルを見極めて、受益者負担は不公平感をなくすためには必要である。

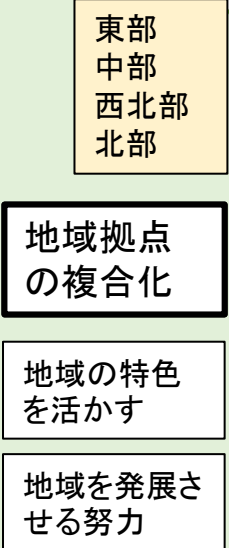
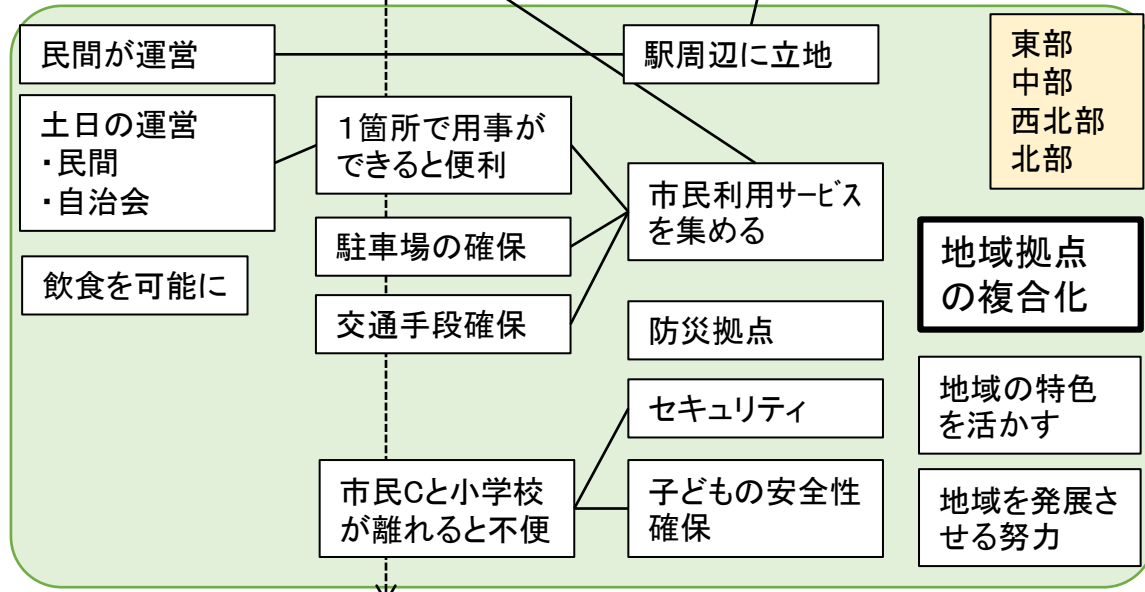
《主な施設分類毎の意見等の傾向分析シート》 市民センター

統廃合

縮小または廃止



※ 本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。



現状維持

複合化

主な施設分類別の検討事項まとめ（幼稚園・保育園）

各地域（ブロック）ごとに出た参加者の意見を基に、主な施設の分類別に各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

①集中配置：中部、南部

- ・統合する際には、遠方からの通学に対して、スクールバスなどの配慮が必要である。
- ・通園が遠くなった場合には、幼児はバスで通えるかわからない。
- ・バス費用の補助はあるのか。お年寄り向けの補助はある。
- ・園児数が少ない幼稚園2園を1園に統合したら、定員いっぱいになり教育環境が悪くなる。
- ・定員に対して余裕があったほうが望ましいが、今後3年保育を考えると施設に余裕もない。
- ・少人数保育を実現するには、費用と料金のバランスも大事だが、支払額の増加は困る。
- ・共稼ぎで通勤に駅を利用する人も多いため、駅周辺に集約すると便利である。
- ・建物をよりよく使うためには、民間活用もある。
- ・民間が建てて、1階を支所、上は民間が使用して収益を出す考えも必要である。土地も民間へ貸す。

②大規模幼保一体化：北部

- ・地域に幼稚園と保育園を一体化した大規模な保育環境を設けることで、子育てサービスを向上することも必要である。

③学校への複合化：南部、中南部、中北部

- ・小学校＋中学校＋幼稚園のように目的別に機能をまとめる。
- ・教育施設の複合化（小＋中＋幼）であれば、セキュリティの管理が可能である。
- ・幼稚園を小学校と複合化する場合、活動目的や活動内容が異なるため、騒音等に配慮する必要がある。
- ・空き教室には優先的に、市民センターや幼稚園、子どもとお年寄りが一緒に生活できるような施設を受け入れた複合化が考えられる。

④現状維持：東部

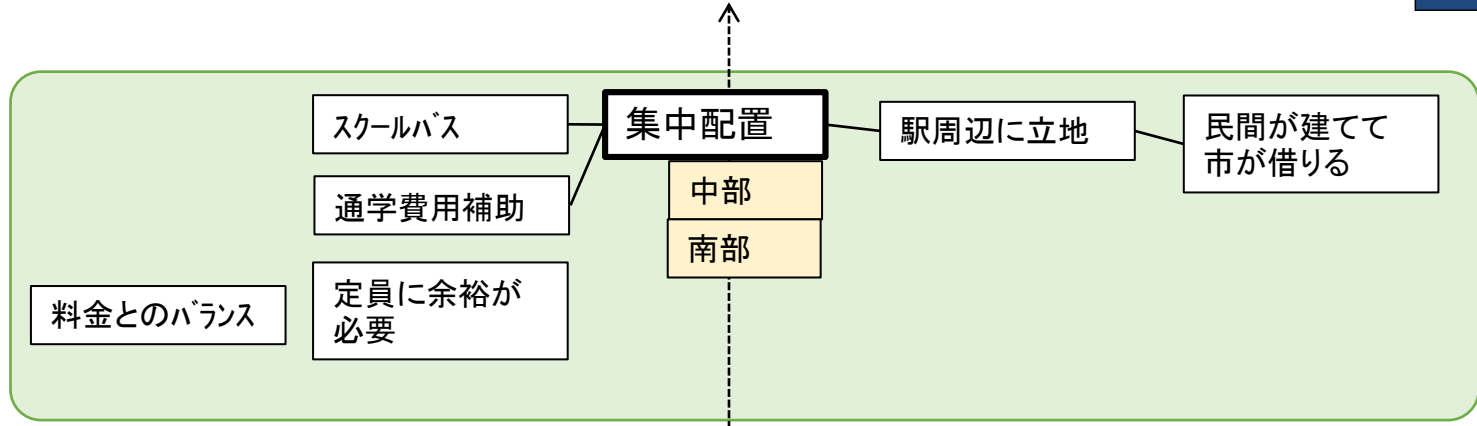
- ・地域に幼稚園がなくなると、地域の魅力がなくなる。
- ・幼稚園は、地域の協力下に特色ある幼稚園づくり（少人数、芝生グラウンド）を行っている。

《主な施設分類毎の意見等の傾向分析シート》

幼稚園・保育園

縮小または廃止

統廃合



※ 本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。

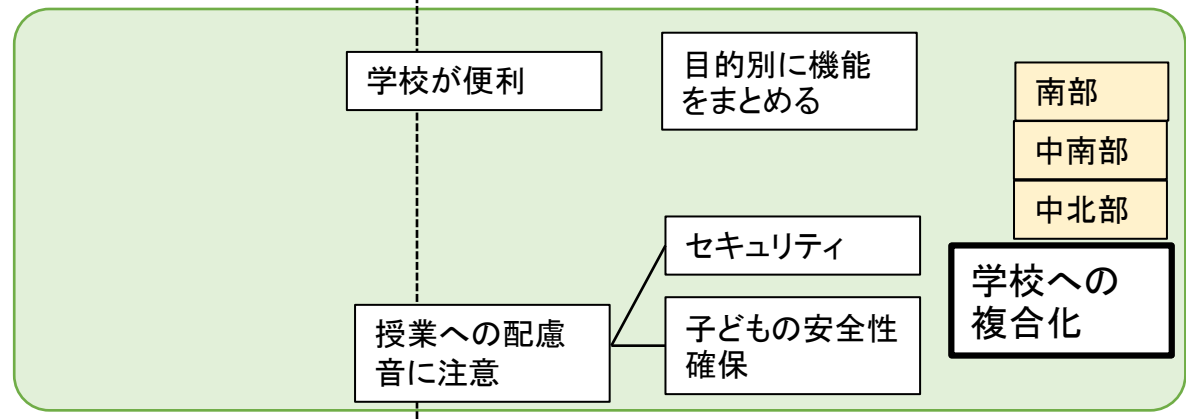
北部

大規模
幼保
一体化



幼稚園をなくすと地域の魅力もなくなる

地域の魅力
東部



現状維持

複合化

主な施設分類別の検討事項まとめ（その他意見）

各地域（ブロック）ごとに出た参加者の意見を基に、主な施設の分類別に各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

①地域の発展：東部、南部

- ・ 公共施設は地域の特色を活かす配慮が必要である。
- ・ 地域の発展（人口増加）には、他の地域から人を取り込めることが必要である。
- ・ 一つの施設を作るためにはお金がかかるため、将来の人のためにも良い物をつくる。
- ・ 学校を必ず残し、その分を他の施設でカバーするような将来サービスを捉えたガイドラインを示した上で検討が必要である。

②観光：中北部

- ・ 教育と観光は関連しており、小学校にある歴史的資料を資料館へ移設すれば、観光資源となる。
- ・ 湖岸など観光のロケーションとしてはよいが、公園等のレジャー施設が無い。

③民間活用：中部、中南部

- ・ 共稼ぎで通勤に駅を利用する人も多いため、駅周辺に集約すると便利である。（手続きや保育、図書）
- ・ 建物をよりよく使うためには、民間活用もある。
- ・ 民間が建てて、1階を支所、上は民間が使用して収益を出す考えも必要である。土地も民間へ貸す。
- ・ サービスレベルを見極めて、受益者負担は不公平感をなくすためには必要である。

④利便性（予約システムの高度化）：中南部

- ・ 使いたいときに使えなかったり、予約期間や予約方法が同じ大津市の公共施設でも施設管理者や担当が異なれば違っており、使いにくく、改善が必要である。
- ・ また、地域施設と広域施設など、用途の目的が異なるため、地域住民は使えないといった問題も解消し、もっと使いやすくする必要がある。

《主な施設分類毎の意見等の傾向分析シート》

その他意見

縮小または廃止

統廃合

中南部

利便性

予約システムの高度化

広域施設の活用

手続き
保育
図書

利用ニーズが高いサービスを
駅周辺に集約

民間活用

中部
中南部

サービスレベルの見極め

民間が建てて、市が借りる

受益者負担

1階を支所、上は民間が使用して収益を出す

価格戦略

広域の公園(レジャー)がない

小学校には歴史的資料が眠る

資料館へ移設し観光資源とする

中北部

観光

人口増加など地域を発展させる努力

地域の発展

将来の人のためによいものをつくる

東部

南部

公共施設は地域特性を活かす

※ 本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。

現状維持

複合化